

令和8年度 府立鳥羽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

全日制課程
令和8年4月2日

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自律する人間」の育成をめざし、教育方針である「人間性」、「先駆者精神」、「克己」の理念をあらゆる教育活動に活かし、知・徳・体のバランスに配慮した生徒一人一人の学力の向上と個性の伸長を図り、グローバル時代に期待される人材として次の6つの資質・能力を育む。</p> <p>① 歴史をとおして世界を俯瞰する力 ② 多様な文化的背景を持つ人と協働する力 ③ 科学的に思考・吟味する力 ④ 新たな価値を創造する力 ⑤ 課題解決の枠組みをデザインする力 ⑥ 困難な状況を突破する力</p>	<p>□学習指導 様々な活動を有機的に関連付けることで、教育活動全体をとおして学力を育成する体制が整った。同時に、教育活動全般について改善が進んだ。選ばれる学校に向けて、各コースの一層の魅力化を進める必要がある。また、教育活動を俯瞰した上で費用対効果を検証し、事業を整理する必要がある。</p> <p>□生徒指導 「規範意識の醸成」や「安全安心で落ち着いた教育環境の維持」が継続できた。同時に、酷暑等の環境の変化等に対応し、ルールの弾力的な運用もできた。顕在化した課題や社会情勢の変化等に注目し、人権意識や規範意識等の涵養に向けた取組や校内ルールの改訂等に取り組む必要がある。</p> <p>□人権教育 3年間の人権学習計画を再構築し、事前学習や事後学習を充実させることで、具体的な人権問題についてさらに理解を深めることができた。生徒指導案件において、人権意識の希薄さに起因する例があり、引き続き粘り強く人権教育を継続する必要がある。</p> <p>□進路指導 大学入学共通テストの電子出題に適切に対応することができた。また、希望進路の実現に向けた従来の取組について、適宜精選や改良を加えることで、3年間を見通した計画の骨子が整った。今後は、国内の多様な入試や海外大学進学に向けた指導ノウハウを蓄積する必要がある。</p> <p>□情報教育 モバイル端末の使用が浸透し、その長所を踏まえ了上での効果的かつ応用的な活用に向けた議論が進行した。国内外の動向に注目し、最適な活用方法を追求する必要がある。</p> <p>□グローバル人材育成 国内外で活躍する人材が増え、グローバルリーダー育成に関する取組の成果が明確化した。探究学習のさらなる深化や海外大学進学を含む希望進路の実現に向けて、取組を加速する必要がある。</p> <p>□保健・特別支援 同時双方向型授業の実施、学校保健の推進、適切な緊急対応等、学校の安全安心に大きく貢献した。同時双方向型授業の実施による成果と課題については総括する必要がある。</p> <p>□読書指導 各種イベント実施や啓発活動を通して、図書館の利用促進や読書量の維持につなげることができた。情報源としての新聞(紙体)の有用性及び絵本読書の効果等、紙媒体や読書の利点について、引き続き伝えていく必要がある。</p> <p>□家庭・地域社会との連携 広報の手段や内容を工夫することで、本校受検生の確保や本校の認知度の向上につながった。一方で、本校の魅力発信については、時代に即したより訴求力の高いツールの活用も検討する必要がある。</p> <p>□施設設備・文書・情報管理 部分的ではあるが懸案であったトイレ改修等の施設整備が進み、本校の弱点的な魅力の向上につながった。校内環境の整備については、引き続き要望していく必要がある。個人情報については、引き続き慎重に扱う必要がある。</p> <p>□その他 働き方改革について、各人の意識面の改革や各種取組は一定程度進んだ。一方で、これ以上の取組実施や方針検討については、現状の勤務環境では、限界に近い。また、校内の安全安心環境の確保という面で、外来者の把握状況や登下校時刻の運用の面で、課題が見えられた。</p>	<p>(1) 安全で安心できる教育環境のもと、多様性を尊重し、自らの可能性を信じて新しいことに積極的に挑戦する生徒を育成する。</p> <p>(2) 毎日の質の高い授業を基盤に、部活動や探究活動、高大連携事業等のすべての教育活動を有機的に連携させることで、全生徒の希望進路の実現につなげる。</p> <p>(3) 京都府立高等学校の新しい入学選抜制度の開始を踏まえ、各コースの特色化をさらに進め、今まで以上に選ばれる学校づくりを進める。</p> <p>(4) 現行の学習指導要領の確実な実践とともに、次期学習指導要領の実施を見据えた教育研究を進める。</p> <p>(5) 訴求力の高い広報を展開し、本校の魅力より分かりやすくタイムリーに中学生や保護者等に伝える。</p> <p>(6) 高い人権意識を基盤とし、「働き方改革」と「働きがい改革」を両立させることで、生徒にとっても教職員にとっても充実感の高い教育環境を追求する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	総括	成果と課題
学習指導	学ぶこと意義や真価を共有し、教育活動全体をとおして質の高い学力の育成を図る。	<p>「学ぶことの楽しさ」や「世の中のなぜ」、「未来への展望」等を伝えることで、知的好奇心や学びへのモチベーションを今まで以上に高め、生徒一人一人が主体的に学ぶように導く。</p> <p>学習内容の基礎・基本を確実に定着させるとともに、その内容を応用し活用する場面や機会を、あらゆる教育活動に設定する。</p> <p>学んだことや体験したこと、思考・想像したことを言語化することで、思考力・判断力・表現力を養い、自分の真意を伝える力を育成する。</p> <p>学習状況調査、授業評価、学力状況等のあらゆる結果や指標を活用し検証を行い、各コースの特色に応じた教育活動の改善につなげる。</p>		
生徒指導	ルールとマナーを守る態度を育成する。 これからの社会づくりに積極的に貢献する態度を育成する。 組織的にいじめの未然防止を図る。	<p>本校の特徴であり伝統である「挨拶を交わす、正しい言葉を使う、身だしなみを整えることは、マナーの基本であること」を理解させ、実践できるよう指導する。</p> <p>無断撮影、特殊詐欺、消費者被害等、SNSを介した犯罪に巻き込まれないよう未然防止の取組を、あらゆる教育活動とおして行う。</p> <p>生徒会、各種委員会、クラス活動、ボランティア活動などを通じて、協働する力と社会参加への意識を養う。</p> <p>部活動を通して、技能を習得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性・意欲の向上につながるよう指導する。チーム内で切磋琢磨し、より高い目標を設定し、突破する力を養う。</p> <p>研修や啓発等を通していじめについての理解を深めるとともに、日頃から人権意識を高め、生徒から相談されやすい関係を醸成する。</p>		
人権教育	あらゆる教育活動をとおして人権教育を推進する。	<p>自他を尊重し人権問題を自分ごととして考える精神を養い、多様化・複雑化する人権問題の解決に向けた人権教育を推進する。</p> <p>人権学習の成果と効果を検証し、次年度以降に向けた改善につなげる。</p>		
進路指導	生徒一人一人の進路希望を実現する。 時代に即した職業観・勤労観を育成する。	<p>国内の多様な入試形態や海外の大学等への進学も視野に入れた指導ノウハウを蓄積するとともに、それらを共有する仕組みを構築する。</p> <p>これまでの大学入学共通テストを重視する指導を更に発展させるとともに、国公立大学個別試験を見据えた指導をさらに充実させる。</p> <p>時代に即した望ましい職業観・勤労観を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけさせるため、計画的・継続的に進路指導・キャリア教育を行う。</p>		
情報教育	タブレット等のICT機器を活用し、広く(グローバルに)、変化の激しい時代を主体的に、創造的に拓く態度を育てる。	情報モラル・情報リテラシーを確実に身につけ、ICT機器を正しく効果的に活用することで、知識を体系化・系統化、応用し、意見交流することができるようにする。		
グローバル人材育成	WWL事業実施校、グローバルリーダーの素養を涵養する。	国内外での取組(海外留学や海外研修、国内短期留学生の受け入れ等)や学校内外での取組(各種研究発表会、京都探究エクスポート等)を積極的に広報し、実際に応募する生徒や参加する生徒の増加につなげ、グローバルリーダーの素養の育成や裾野の広がりを図る。		
保健・特別支援	健康の保持増進と支援の必要な生徒の課題解決に必要な学校環境作りを進める。	検診等の結果や環境の変化を踏まえ、生徒の心身の健康の保持増進に努め、学校における保健管理、安全管理を適切に進めるとともに、支援の必要な生徒の教育的ニーズに応じて学習上、生活上の困難の改善を一層図る。		
読書指導	読書活動を推進する。	図書館からの情報発信や啓発活動、教科や総合的な探究の時間をはじめとする教育活動をおとして、情報源としての紙媒体や読書の有用性を再考する機会をとるとともに、図書館利用を促進して読書活動を活性化させる。		
家庭・地域社会との連携	家庭・地域・社会との連携と交流を積極的に行う。	学校ホームページや説明会、出版物等に加え、時代に即した訴求力の高いツールの活用や各種会議等へ参加をとおして、本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、本校への理解を深める。		
施設設備・文書・情報管理	学習環境の質を確保する。 個人情報に配慮した文書管理・情報管理を行う。	<p>生徒及び教職員の安全と安心を確保するとともに、よりよい教育環境づくりに向け施設・設備の充実を図る。</p> <p>紙文書及び電子データについて、個人情報に配慮した適切な文書管理・情報管理・情報発信を行う。</p>		
学校運営協議会による評価				
次年度に向けた改善の方向性				